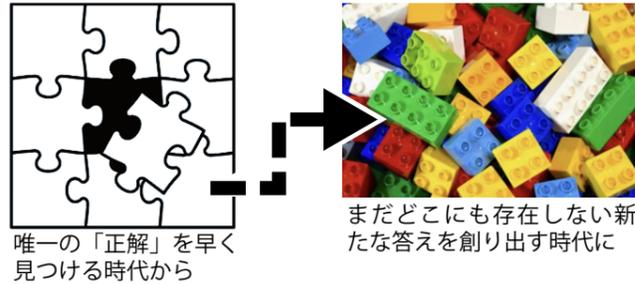


02: 教育構想策定の背景

予測困難な社会が到来している

グローバル化や技術革新により、私たちを取り巻く環境は急速に変化し続けており、人口問題や気候変動、パンデミックや国際社会の不安定化など、私たちが向き合わねばならない問題も複雑化・多様化しています。原因と結果が一義的に対応しているわけではなく、将来の予測が困難な社会においては、どこかに存在している唯一の正解に早くたどり着くことが求められてきたような既存の価値観だけでは通用せず、まだどこにも存在しない新たな答えを自ら創り出していくことが求められると言われています。また、科学技術の進歩によってこれまで人間の担ってきた仕事の多くが AI に代替されていくことも指摘されています。私たち一人ひとりがどのように生きていくのか、社会においてどのような役割を果たしていくべきか、その在り方が大きく変化しようとしている時代です。



「モノ」から「ココロ」へ

身近な生活に目を向けると、インターネットの普及による急速な情報化や技術革新による生産性の飛躍的な向上は、私たちの日常生活を大きく変化させてきました。物質的な豊かさが満たされる一方で、安らぎや潤いが求められるようになり、「ココロ」の豊かさについて考えるべき状況になってきています。また、近年のコロナ禍において対面でのコミュニケーションが制限される中で、人と人とのつながりの大切さについても、改めてその重要性が認識されることになりました。

これからの社会におけるアートの役割

こうした社会において、アートはどのような意味を持ち、何ができるのでしょうか。

アートには感情を大きく揺さぶり動かす力、文字通り「感動」を生み出す力があります。人と人をつなぎ人々の「ココロ」に潤いや豊かさをもたらすアートやその担い手の重要性は、ますます高まっていくと考えています。

また、アートが生み出す対話を通じて自分だけでは気づけなかったひらめきやアイデアを得ることは、時代を乗り越えていく知恵や行動力の発揮につながっていくはずです。同時に、他者とのつながりだけでなく、作品を通じた自己との対話によって自らを見つめ直し、新たな自分自身と出会うことも、成長への大事なプロセスになるのでしょうか。さらに、あらゆる領域とつながることができるアートの力や発想は、今、様々な分野に必要とされています。アートを手がかりにして、学びを広げたり深めたりしていくこともできます。

こうした中、作品制作を中心とした学びを通して知識や技術を習得し、芸術家をはじめとする美術・工芸の世界で活躍できる担い手の育成とともに、普遍性や発展性をもったアートをグローバルな視点で学び、世界の中の「一人」として生きていくために必要な力を培うという、より広い視野に立った美術教育も求められています。

世の中は「わからない」ことで溢れています。その「わからなさ」と向き合い、挑み続け、新たな問いや答えを導き出していくうえで、アートには大きな可能性があります。自分の感覚や世界観に基づいて、他者と対話しながら「ありたい姿」を想像 (imagination) し、それを未来に向けて創造 (Creation) するという力、この2つの「ソウゾウ」をする力はきわめて人間的な力であり、特にアートを学んだ者にとっては大きな強みとなるものです。まさに、未来はアートに託されていると言えるでしょう。



■ 美工の学校改革の基本的な考え

このような社会情勢の下、アートの重要性やアートを学ぶ意義が高まっていることを踏まえ、新たな学校構想の検討を進め、美工の学校改革の基本的な考え方を次のとおり定めました。

美術「を」学ぶから 美術「で」学ぶ学校へ

美術の知識や技能を学ぶだけでなく、美術専門教育を軸に、教科・科目・専攻を横断した教育の展開や、大学・産業・地域・海外の教育機関などと連携した教育活動を推進し、美術を通して広く社会に貢献できる創造性豊かな自立した青年の育成につなげる。

－ グランドビジョン懇談会でのご意見 －

学校構想の検討を進める中で、令和2年度に設置した「グランドビジョン懇談会（詳細は P13 参照）」の委員等からいただいたご意見。

○ 幅広いインプットや思考が表現を多様にする

幅広い教養や日常的な観察、自分以外の世界観に出会うなど、インプットの力を育むことが、多様で豊かなアウトプットに繋がっていく。／思想や哲学など、高校生が思考する機会は重要である。

○ 京都の資産を活かす

京都の資産である伝統産業との繋がりを通して、ものづくりの文化的な物語性（ストーリー）と精神性（スピリッツ）から学ぶ取組は重要である。

○ キャリアをひろげる

美術を学んだことの強みは、将来作家だけでなく、幅広い分野で力を発揮する。／ものをつくるだけでなく、ものを語る力を培い、ストーリーテラーの育成に繋げてほしい。

○ 年少の世代と交流する

年少の世代との交流を通して、高校段階の常識や感覚を一旦崩す仕掛けは重要である。／高校生の作品を地元の子どもたちが鑑賞できる機会を設定してほしい。

○ 好きなことで生きていく

平均的に力を培っていくのではなく、「強み」を更に伸ばしてほしい。／様々なことに挑戦し、高校時代に失敗する経験をする大切さを学ばせてほしい。／移転先の立地を活かし、生徒の作品等をもっと世に問う機会を設けるなど、真剣勝負させることが重要である。